

南八ツ・硫黄岳 (2760M)

1.山行日 平成 18 年 5 月 3 日～4 日 (一泊二日) 快晴／快晴

2.行 程 () は予定時間

5/3 (水)

北柏 5 : 36 ——— 6 : 36 新宿 7 : 00 ——— 9 : 07 茅野

スーパーあずさ 1 号

茅野 9 : 30 ——— 10 : 07 美濃戸口 10 : 10 ——— 11 : 00 美濃戸 11 : 10 ——— 13 : 10

バス

(1 : 00)

(2 : 00)

赤岳鉱泉<昼> 13 : 40 ——— 14 : 10 赤岳鉱泉 ——— 16 : 00 赤岩の頭 ——— 16 : 30

(1 : 30)

硫黄岳 ——— 16 : 50 硫黄岳山荘<泊>

(0 : 20)

5/4 (木)

硫黄岳山荘 6 : 30 ——— 7 : 00 硫黄岳 7 : 20 ——— 8 : 30 夏沢峠 ——— 10 : 00 東天狗岳

(1 : 00)

(1 : 30)

10 : 15 ——— 11 : 30 黒百合平 ——— 13 : 00 渋の湯<温泉><昼> 14 : 48 ——— 15 : 40

(0 : 45)

(1 : 30)

バス

茅野 15 : 40 ——— 17 : 32 八王子 ——— 北柏

あずさ 26 号

3.随 想

今年のGWもまた八ヶ岳へ向かった。美濃戸口で登山届を提出し、ルートの状況を聞く。雪が多いから気をつける様にとの事。通い慣れた道を美濃戸まで行き、そこから北沢沿いに赤岳鉱泉へ行く。赤岳鉱泉で昼食をとり、アイゼンを付け準備する。赤岳鉱泉には何年ぶりかで来たうえに標識が雪に埋もれていたの、硫黄岳への入り口がわからず直進してしまった。大同心の壁を左手に見上げて、道を間違えた事に気が付く。すぐ戻るが約 30 分ロスしてしまった。登山口を見つけ樹林帯のなかに入っていく。ジョウゴ沢を渡り左側の尾根を登って行く。夏道だとジグザグの登行が続くのだが、雪道は直線的で急な登りとなりアイゼンをきかしてもなかなか苦しい。ダケカンバを抜けると、トレースは赤岩ノ頭の南斜面を稜線へと延びていた。ここは今年の 2 月 11 日に幅約 400 ㍎、距離数百㍎に及ぶ大規模な雪崩が発生した場所。トレースは雪崩の後のざらざらした雪だが、斜面を小さな雪玉ががさがさ落ちて来ている。見上げると雪尻が張り出しており、いやでも恐怖心が湧いて来る。早くこの危険地帯を抜けなければと、疲れているが休むわけにはいかず必死になって登った。稜線に飛び出すと、目の前に素晴らしい景色が飛び込んで来た。主峰赤岳を中心とした八ヶ岳の主稜線が、残雪と岩肌のまぶしいばかりのコントラストで美しく輝いていた。さっきまでの苦しみと怖さを忘れて、冷たい風に吹かれながらも忘我の境にしたった。心は残れども夕暮れが迫って来るので硫黄岳を越えて今日の宿の硫黄岳山荘へ向かった。

4 : 50 日の出。今日もまた最高の天気になりそうだ。食事をして出発。再び硫黄岳頂上に立つ。北岳・甲斐駒・仙丈の南アルプス、中央アルプス、御岳・乗鞍、穂高・槍から白馬への北アルプス連峰、妙高・浅間、奥秩父の山々と 360 度の大パノラマが広がっている。さらに南八ツ、北八ツの峰々に囲まれて、その中心に自分がいるように思えてくる。いつまでも眺めていたい所だが夏沢峠に下る。東天狗岳に登り黒百合平を通り一気に渋の湯まで下った。昨年、一昨年この辺りを歩いたが、やはり今年は雪が多く天狗から渋までアイゼンを付けっぱなしだった。渋の湯温泉にひたりながら二日間の素晴らしい山行を振り返った。風は冷たかったが天気に恵まれ、まさに『春山如笑』であった。精神的、肉体的にもリフレッシュできました。